

檜原村産のゆずで、炭酸飲料ができました！

昨年の12月に村内で収穫させていただいたゆずを使って、2種類の炭酸飲料を作りました。写真の右のびんがゆずソーダ、左がゆずクラフトコーラです。清涼飲料水に分類される製品で、ふたを開けてすぐに飲むことができます。

清涼飲料水製造の許可を得るためには、施設の衛生管理、使用する水の消毒、容器の殺菌などを行うための大規模な設備が必要です。現状、村内で製造できる場所はありません。管轄の保健所にも、大手飲料メーカー以外で、許可を取ることは難しいと言われました。そんな時、観光協会の職員の方に、ときがわブルワリーという埼玉県飲料製造会社を紹介していただきました。そちらに檜原村産のゆずを持ちこんで製造を委託し、試作品の完成に漕ぎつけました。

少し変わった商品名は、ときがわブルワリーの代表の方の助言を受けつつ、アニメやライトノベルなどに着想を得て決めました。研修でお世話になっていいるカフェせせらぎ、森の風、山の店、観光協会、やまぶき屋などに置かせていただき、試験販売を開始しています。

製品に込めた想いを以下に記載したので、併せて読んでいただけたらと思います。この製品が、檜原村の魅力を知ってもらえ、きっかけとなり、情報発信の一助となれば嬉しいです！（松本）



こんにちは。檜原村に“転生”したつもりで移住生活をはじめた、地域おこし協力隊の松本です。

離島を除けば、東京でただひとつの村―それが檜原村です。この土地で出会ったのが、香り高いゆずでした。

たわわに実っても収穫されずにいたその果実は、未利用資源であると同時に、獣害のきっかけにもなっていました。手入れされないゆずの木は、サルなどを里に引き寄せてしまうのです。

「ゆずを収穫して、おいしい飲み物にできたら、一石二鳥じゃないか？」そんな思いから生まれたのが、このゆず炭酸です。

しゅわつとやさしく、山とつながる一本。

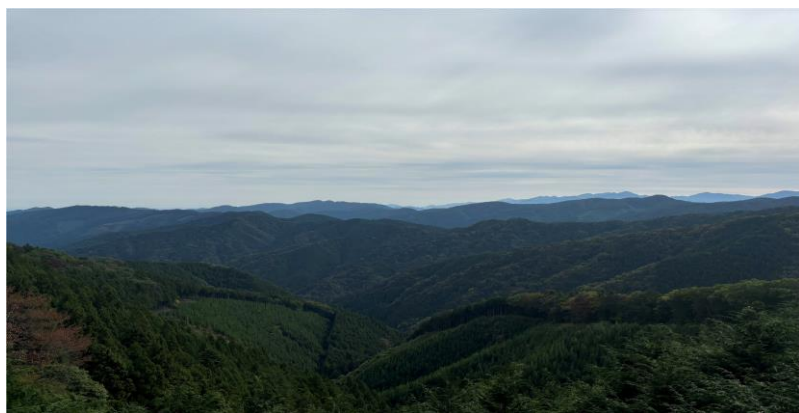
これは単なる炭酸ではなく、地域の課題を“おいしく変える”小さな実験でもあります。

少し早いですが協力隊を卒業します



私、加藤倫啓ですが、地域おこし協力隊を卒業します。丸一年という短い任期ではありましたが、たくさんの人と出会い、多くの発見がありました。私は空き家対策として地域おこし協力隊に参加しました。

前職である設計事務所の知見を活かして移住者の方にリフォーム・リノベの提案ができればと思い檜原にきました。しかし、ふたを開けてみれば設計できる物件はなく、空き家はあるが放置されている状態でした。その問題を解決するべく活動を行ってきましたが、設計意欲が増すばかりでありましたので、リフォーム・リノベーション事業を主に取り扱っている設計事務所に就職する運びとなりました。再び設計職として腕を磨き、リフォーム・リノベーションを一般的に普及できるように動き方ができればと考えています。



長々と自分事でしたが、自然を感じたくなったら檜原村に、また遊びに来ようと思います。一年という短い期間ではありましたが大変お世話になりました。ありがとうございました。（加藤）



／ 空き家の相談受付中 ／

空き家ありませんか？

檜原村役場むらづくり推進係まで！

☎042-519-9556

自然観察記

三頭沢にサンショウウオを観察しに行ってきました。東京都には三種類のサンショウウオが生息しており、そのうちハコネサンショウウオとヒガシヒダサンショウウオの二種を同時に観察できる希少な場所として、両生類好きな方たちの間で有名なスポットとなっています。どちらも溪流や沢に生息する「流水性」という共通点がありますが、標高の高さがそれぞれ異なります。それが三頭沢で奇跡的に交わるということになります。



この夏、ぜひ観察をしに三頭沢を訪れてみてはいかがでしょう？（林）

檜原に咲く花

イワタバコは日陰の湿った岩肌や崖地に着生する多年草です。星型と言うかヒトデ型と言うか、可愛らしいフォルムに紫色の花が印象に残りますが、「葉の形がタバコの葉に似ているから」という理由でその名が付けられたそうです。若い葉をお浸しや天ぷらなど山菜として食する地方もあるのだとか。（林）



滝と私

笛吹にある不動滝。この滝もまた、実に眺めたくなる滝です。不動滝に至るには、まずガードレール脇にある「不動滝入口」の看板を目印に、木々をかき分け、踏み跡を頼りに沢へ降ります。そこから遡行して行くと、落差十メートルほどの不動滝が見えてきます。（林）



自然と共生 ～檜原村で始める菌ちゃん農法～

こんにちは、みなさん！「ろう？」その日から、自分檜原村に移住してから約なりに理由を探し始めました。4か月になる高橋です。こした。たどり着いた答えの度、私は菌ちゃん農法には、3つの要素が重なり合チャレンジしたいと思っています。1つ目は、昔ながらの有機栽培か？その理由からお話さ培です。檜原村のような中せてください。私が檜原村山間地域では、大規模な農業に移住して間もない頃、村民の方からスナップエン恵と工夫が継承されているドウをいただきました。口ます。身の回りにある資源にした瞬間、トウモロコシを活かすことで、野菜本来のような甘さ、そしてエグの力が引き出されているミがほとんどなく、とてもではないかと思っています。驚いたことを覚えています。2つ目は、斜面を利用す。「なぜ檜原村の野菜は用いた畑です。水はけの良い斜面は、根菜類がしっか

りと根を張り、風味を豊かにします。3つ目は、昼夜の寒暖差です。山間部特有の寒暖差は野菜の甘味を凝縮させます。これらの要素を檜原村で最大限に活かすには「菌ちゃん農法」が最適だと考えました。今回の記事では菌ちゃん農法とは一体どんな農法なのか？についてご紹介したいと思っています。今後の連載を通して、菌ちゃん農法への挑戦をお届けできたらと思います。最後に、現在お借りしている畑の様子になります。約一か月三本鍬で開墾した自分を褒めたいです（高橋）



Before (5/23)



After (6/27)

空き家相談窓口のご報告

最近では、登記名義人が明治時代の方のままであるという相談が多くあります。

明治時代からの相続登記を行う場合は、相続人がかなりの人数になります。そのため、相続人を確定するところからはじめます。

最初に必要になる書類が「改製原戸籍」というものです。この書類で、相続人を確定します。それから「遺産分割協議書」の作成になりますが、大人数になるとかなり大変な書類になります。



そこで、「相続分譲渡証書」という書類で手続きをすることもできます。

この書類は、相続人代表とそれぞれの相続人が個人同士で作成するものになります。

「遺産分割協議書」では一通を全員で作成しますが、「相続分譲渡証書」は代表の相続人と個人で作成するので、「遺産分割協議書」と比較すると簡単に作成することができます。

とはいえ、難しい書類になりますので、お気軽にお問い合わせください。（中澤）

地域おこし協力隊へのご依頼は
檜原村役場 むらづくり推進係へ

☎042-519-9556

協力隊各種 SNS は
QRコードから！➡



編集後記

かなり暑くなってきましたが、いかがおすごしでしょうか？私は、毎週のように檜原太鼓の出番があり、楽しく、バテながら過ごしています（笑）今月は9日に南郷、16日には滝まつり、17日には昭島のお祭りに出演します。ご興味のある方は、ぜひ応援に来てください！気合を入れて叩きます！（中澤）



地域おこし協力隊 メンバー

かとう 加藤 りんけい 綸啓 まつもと 松本 よしふみ 圭史 なかざわ 中澤 だいき 大樹

はやし 林 あきひろ 陽浩 たかはし 高橋 まさき 政樹

村内で見かけたら、お声かけください！